

影向寺（ようごうじ） 川崎市宮前区野川本町3丁目4番4号

天平11年(739)光明皇后が眼病を患った折、聖武天皇の御夢の中に一人の僧が現れ、「武蔵の国橋樹郡橋郷に霊地があって、その地に不思議な霊石があります。その石の上にはいつも聖浄比なき水が湛えてあります。此処に伽藍を建立し、薬師如来を安置し奉るならば、皇后の御悩み立ちどころに御平癒となるであります」と申しあげました。天皇は早速、高僧・行基を遣わし祈願させたところ、霊験あらたかで皇后の御病気も快癒されたそうです。天皇の勅命によりこの地に伽藍がそびえたのは、その翌年のことであると伝えられています。国の重要文化財である本尊の薬師如来像をはじめ、二十三躰の仏像彫刻や古文書類、民族資料が数多く所蔵され、川崎市の歴史の原点を明らかにしていく上で欠かすことのできない貴重な文化財の宝庫となっています(境内案内板)。



説明版



薬師三尊の国宝復活活動版



木造建築阿弥陀堂本殿(中は見れず)



2mほどの力強い 仁王像



本殿扁額



昭和48年6月 梵鐘再鑄・鐘楼堂屋根再建



太子堂



ご神木 樹高 28m、胸高周囲 8.0m、樹齢約 600 年(推定)



当寺のいわれとなった影向石



力石